

平成22年の天然遡上アユに期待！

利根川を遡上する天然アユは、江戸川河口の水閘門で遡上障害がありますが、国交省の今年度における仮設魚道による良好な試験結果が得られたようです。

利根川江戸川流域ネットワークのホームページから転載記事を紹介します。

(<http://www.ichikawa-midori.com/news/edogawa/index.htm>)

2009年12月1日 (ホームページ更新：12月27日)

トネド、稚アユ遡上を助ける魚道試験に積極提言を確認

<報告> 佐野 郷美

TON-E-DO ネット（利根川江戸川流域ネットワーク）は、9月26日に松戸で利根川の治水計画に関わる大きなシンポジウムを開催したばかりで、その後の整理を進めている最中ですが、昨年より国交省江戸川河川事務所が実施している「稚アユ遡上簡易魚道試験」が今年好成績であったことを受けて、この実験をさらに進め、魚道を上ったあとに閘門内に放流し、閘門開閉と連動させ、稚アユが本当に上流に上っていくような閘門操作を実験するよう河川事務所に働きかけることにしました。

ご存知のように、TON-E-DO ネットは2005年より行徳橋近くの江戸川水閘門で「江戸川の稚アユ救出作戦」を、毎回河川事務所、市川市、江戸川区などの協力を得て実施してきました。このイベントは市川市や江戸川区の多くの市民にアユが江戸川に生息していることを知ってもらうこと、そしてアユが自由に川と海を行き来できるようにすることを目標に始まったものですが、昨年の設置場所や魚道そのものの構造を見直した結果、**今年はかなりの数の稚アユが簡易魚道を上ったのです。**

江戸川水閘門は老朽化により改修が検討されていますが、この簡易魚道試験がさらにうまくいけば、水閘門の改築を待たずにアユをはじめとする川と海を行き来する生きものたちが自由に三番瀬に下ったり江戸川を遡上したりできるようになるのです。



東京都HPより（天然遡上アユ）

（日本一のアユを取り戻す会：福田睦夫）